

脳梗塞(TIA含む)患者のうち入院2日目までの抗血栓・抗凝固療法処方割合

QI 項目の解説

脳梗塞急性期における抗血栓療法として、発症 48 時間以内のアスピリン投与が確立された治療法となっています。また、「急性期脳梗塞治療ガイドライン 2013」では、脳梗塞急性期における抗血小板療法として、アスピリンを脳梗塞発症から 24~48 時間以内に投与することを推奨しています。したがって、適応のある患者には第 2 病日までに抗血栓薬の投与が開始されていることが望まれます。

脳梗塞（TIA含む）患者のうち入院2日目までの抗血栓・抗凝固療法処方割合

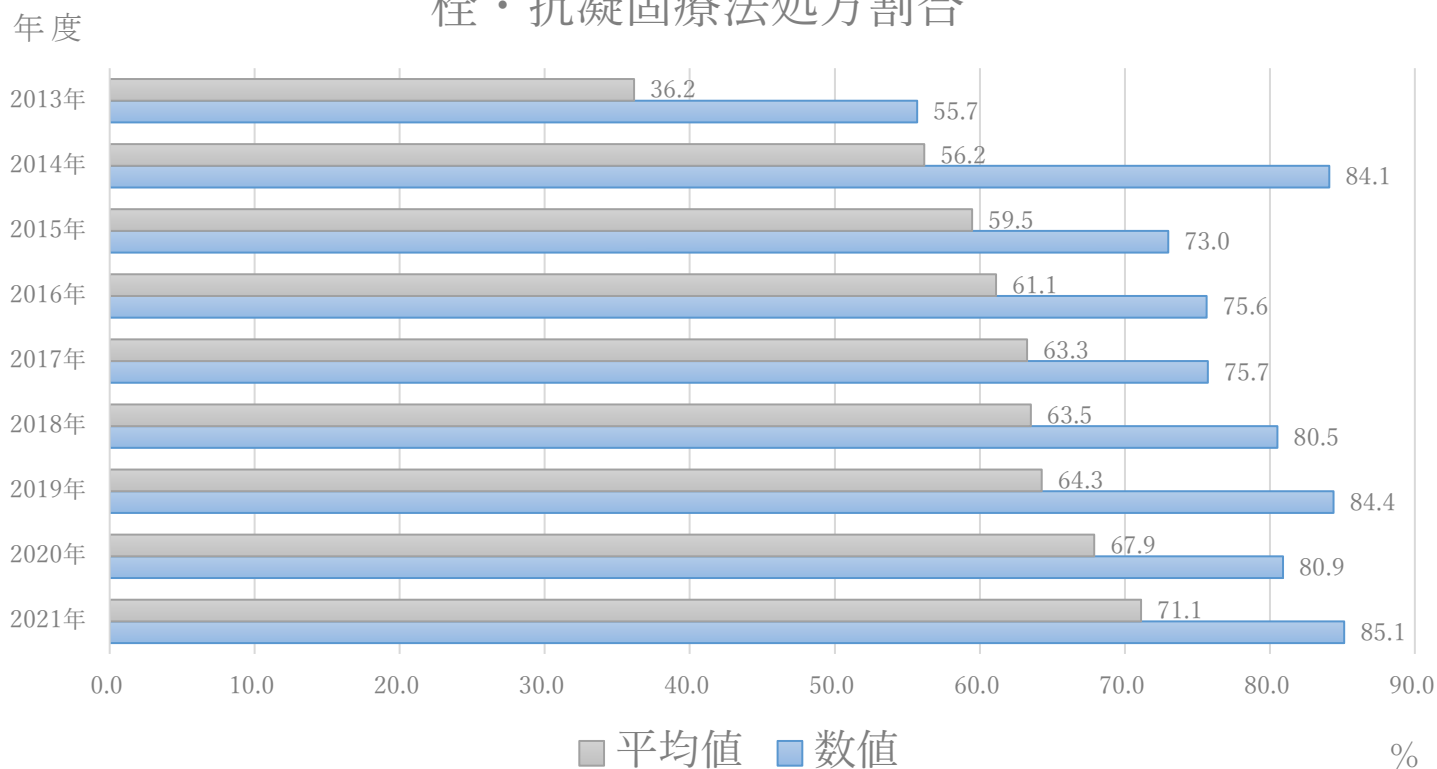
QI 指標の定義・計測方法

分子：入院 2 日目までに抗血栓療法もしくは抗凝固療法を受けた患者数

×100【%】

分母：18 歳以上の脳梗塞か TIA と診断された入院患者数

脳梗塞(TIA含む)患者のうち入院2日目までの抗血栓・抗凝固療法処方割合



2021 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

重症例が多く、治療最初から抗血小板剤の必要な例が多い状態です。

2021 当院データと 2020 当院データとの比較・原因分析

2021 年と 2020 年を比較すると、大きな変化は特にありませんでした。

数値改善に向けた今後の取り組み

今後、より検査（MRI・頸動脈エコー・心エコー）結果とエビデンスに基づいた投薬と治療の対応が必要と思われれます。

2021 当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

今後、より検査（MRI・頸動脈エコー・心エコー）結果とエビデンスに基づいた投薬・治療対応が必要です。